



こまえをこまげる
こまごなNEWS

VOL.47
2021年05月号

発行: 責任編集
狛江市岩戸北
3-18-8-701
狛江で分かりやすい
政治を伝える会



この“いま”だから、出会えた。



Hold on, 息をひそめて *look ahead.*



コロナ禍で生きる人々を狛江の多摩川が静かに見守ります。

Huluで配信中のドラマ「息をひそめて」は、都立狛江高等学校校舎や
高校前の多摩川河川敷をはじめ、多摩川各所でロケが行われています。

4月23日から「オリジナル」で独占配信されている「息をひそめて」は、2020年のコロナ禍、多摩川沿いに暮らす人々を8編のオリジナルストーリーで紡ぐオムニバスドラマです。市民の皆さんにはおなじみの多摩川でも、映像を通して見ると「なんと素敵な景色なんだろう」と認識を新たにされると思います。そんな本作品を、多摩川に見守られて暮らしている狛江市民の皆さんへぜひご紹介したい、とドラマスタッフに申し出たところ、中川監督自らが本作品への思いを語っていただくことができました。どうぞ、監督のお話をお聞きください。

多摩川がコロナ禍で生きる人々を癒す場所

(お話は、監督・脚本の中川龍太郎さん、聞き手は三宅まこと)

三宅まこと(以下、三宅)：本日はありがとうございます。多摩川がテーマとなっているこの作品を、一人でも多くの方に見ていただきたいと思っています。

中川監督(以下、中川)：こちらこそ、ありがとうございます。実は私の祖父母が岩戸北に住ん



監督・脚本 中川龍太郎
映画監督、脚本家。「四月の永い夢」がモスクワ国際映画祭にて、国際映画批評家連盟賞(ロシア映画批評家連盟特別表彰)を受賞。「わたしは光をこきりまわす」がモスクワ国際映画祭にて特別招待作品として上映。最新作『静かな雨』が釜山国際映画祭にてキム・ジンク賞(ノミネート)も、東京フィルムフェスティバルにて観客賞を受賞。詩人としても活動し、『詩とファンタジー』年間優秀賞を最優秀賞で受賞。

でおりまして、狛江には小さいころから馴染みがあるんですよ。

三宅：そうなんです。監督が小さいころは、どちらにお住まいだったのですか？

中川：9歳まで向ヶ丘遊園に住んでおりまして、その後は新百合ヶ丘です。なので、私の小さいころの原風景は多摩川だったんです。

三宅：それで、よく狛江にいらしていたと。

中川：はい。祖父母の家には、よく遊びに行っていました。祖母はよく市役所で花を配っていた記憶があります。私にとつてのふるさとの多摩川って、向ヶ丘遊園から喜多見までなのかもしれませんね。

三宅：それでしたら、狛江のまちがスッポリ収まります。(笑) 本作品では都立狛江高校や学校前の河川敷が重要なシーンのロケ地として使われていますね。

中川：この作品は、コロナ禍で生き



る人々が主人公です。一方では、多摩川自体が主人公にもなっています。ですから実際のロケ地も多摩川にこだわりました。公立校をロケ地として使用することは難しいのですが、校長先生に作品の趣旨をご理解いただき、許可をいただきました。

三宅：多摩川にこだわりを持って、本作品を撮られたのはどうしてなのでしょう？

中川：河原は、都市にとつてのスキマなのだと思います。今の世の中って、社会の中にスキマがなくなっているから人々が貧しくなっているように思えます。

川というのは、昔は人々の暮らしや生活に結びついているものでした。それが今では人々の心を癒す



場所に意味合いが変わってきていると思います。そういう意味でコロナ禍で「苦勞され、それこそ「息をひそめて」生きる人々を癒す場所として多摩川を見つめ直してみたい、そんな思いに駆られました。

三宅：なるほど、わかりました。最後に多摩川に見守られて暮らす狛江の人々へ、この作品に込めたメッセージをお願いします。

中川：コロナ禍という経験を社会が共有したことで私たちの周りには変わってきたことがたくさんあります。でも、川は変わらずに生活の延長線上で、人々の暮らしのそばで流れ続けています。そんな変わらないものの象徴こそが川だと思っんです。

最後に狛江にお住いの方々へメッセージですが、コロナ禍で生きる狛江の人々にとつても、多摩川が癒される場所として感じていただける作品になっていると思います。どうぞ、ご覧ください。

huluオリジナル
息をひそめて
ロケ地マップ
本作の舞台について

本作の舞台は多摩川や生田緑地など、自然が豊かな地域です。多摩川周辺は、かつては砂利の採掘で栄えましたが、戦後は、首都圏の人口増加に伴い多くのベッドタウンが開発されました。自然が多く残る多摩川では、川魚を釣る釣り人の姿や川沿いを走るランナーが多く、都市住民の憩いの場となっています。鉄道は2路線で、「都心の通勤者が多い小田急線沿い」(2・7・8話)「工場への通勤者が多い南武線沿い」(1・3・4話)など、それぞれ違った趣きがあり、様々な方が住んでいるのも特徴の一つです。琴子のマンション(3話)、海と星月のマンション(5話・6話)は、近年高層マンションが目立つ地域となります。商業の中心地は登戸や向ヶ丘遊園で、昔から続く個人商店も多く存在しましたが、登戸駅を中心とした再開発が現在進められています。

息をひそめて
公式サイトはコチラ

【公式サイト イントロダクションから】
多摩川沿いで生きる人々の日常や人間模様を8話で綴る、心温まるオムニバスドラマ。多摩川のそばで暮らす人たちの人生に光を当てる8つの小さな物語は明日へのかすかな希望と温もりを映し出す。

本作で市井の人々を演じるのは、夏帆、石井杏奈、村上虹郎、安達祐実、斎藤工ら、日本のドラマ・映画を支える個性豊かな実力俳優陣。